

平成29年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	30	05	花と緑のたかつ推進事業費			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			676200		道路公園センター 整備課			佐々木	74560

事業の概要							
事業の概要		区内に潤いのある空間を創出するため、市民との協働による花と緑のまちづくりの推進を図ることを目的とし、次の内容を実施する。 (1)区内各所に設置したコンテナ・花壇の維持管理 (2)武蔵溝ノ口駅北口キラリデッキ円筒広場ガーデンの花苗植栽管理					
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	環境まちづくり事業費		
		平成14年度	—				
地域の課題と現状		都市化によりまちの緑が減少している中、緑地や水辺の整備、花と緑のまちづくりの推進により潤いのある空間を創出する必要がある。					
予決算 (単位:千円)		年度	H27年度		H28年度		H29年度
			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額 決算額
		事業費	1,481	1,364	1,364	1,364	1,364 1,362
財源内訳		国庫支出金					
		市債					
		その他特財					
		一般財源	1,481	1,364	1,364	1,364	1,364 1,362

計画 (Plan)	
事業の目的	区内に潤いのある空間を創出するため、市民との協働による花と緑のまちづくりの推進を図る。
今年度の事業の取組内容	(1)区内各所に設置したコンテナ・花壇の適正な維持管理 協力団体(「区民ミニ・ガーデン」連絡会)が適正に運営できる環境を整える。 (2)委託による武蔵溝ノ口駅北口キラリデッキ円筒広場ガーデンの花苗植栽管理と、キラリデッキ植栽体験の実施。

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	・コンテナや花壇については、連絡会と運営会議を5回開催し、連絡調整を密にして花苗の選択から花壇のデザインまで区民主体で季節に応じた適正な植栽、維持管理を行うなど、環境整備を図ることができた。 ・キラリデッキ円筒広場ガーデンについては、キラリデッキ植栽体験の実施を通じて、多くの区民に花や緑の楽しみを知ってもらう機会を設け、緑化の普及啓発を行うと共に、年間を通じて良好な花壇の維持管理を行った。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標			H27年度	H28年度	H29年度	単位
	1	活動指標	コンテナ・花壇の箇所数	目標		11	11	箇所
				実績	11	11	11	
	2	成果指標	キラリデッキ花壇植栽体験(参加者)	目標		30	35	人
				実績	20	35	35	
	3			目標				
				実績				
	4			目標				
実績								

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	都市化により緑が減少していることから、花と緑のまちづくりの推進による憩いのある空間の創出が求められている。		
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施(平成30年度から) 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載 現在行っている活動をより多く知ってもらうため、市政だより(区版)、ホームページ(区版)掲載のほか、キラリデッキ花壇植栽体験や溝の口駅周辺の各花壇植栽の同日作業による全体植栽の実施、活動写真展等の検討を行い、目に見える形での情報発信を行う。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	身近な緑豊かな地域環境が求められている。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	植栽体験者数の増加がみられる。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	区民と行政との適切な役割分担のもと行っている。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	本事業は、高津区の玄関口である溝の口駅周辺の環境美化を目的に区民との協働で実施してきたが、今後はPR方法の工夫などで参加者の増加を図ることで、花と緑のまちづくりを推進していく。

平成29年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	30	10	高津区環境まちづくり普及啓発事業費			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			671650		企画課		佐々木	64121	

事業の概要								
事業の概要		「エコシティたかつ」推進方針に基づき、環境に関する区民意識の醸成及び行動を推進する取組を行う。						
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	環境まちづくり事業費			
		平成21年度	—					
地域の課題と現状		自然環境、社会環境、生活環境に関する諸課題に対し、地域の多様な主体が協力して総合的かつ多角的に取り組む必要があることから、区民一人ひとりの意識の向上及び環境配慮に関する積極的な取組を促す必要がある。						
予決算 (単位:千円)		年度	H27年度		H28年度		H29年度	
			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
財源内訳		事業費	2,468	2,079	1,870	1,840	1,780	1,585
		国庫支出金						
		市債						
		その他特財						
		一般財源	2,468	2,079	1,870	1,840	1,780	1,585

計画 (Plan)	
事業の目的	「エコシティたかつ推進方針」の区民に対する普及啓発活動のほか、区役所庁舎の「エコシティホール化」を推進し、環境学習の場として活用した環境啓発を実施する。
今年度の事業の取組内容	・小学校を活用した「エコシティたかつ推進方針」の普及啓発活動を実施する。 ・区役所庁舎の「エコシティホール化」の一環として、緑のカーテンを実施するほか、庁舎電灯のLED化を促進する。

実施結果 (Do)							
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等	・橋小学校及び南原小学校をモデルケースとした「小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト」を試行実施。敷地内の計測結果を活用し、水の流れや地球温暖化適応策を考えるための機会を提供する出張授業を両校で実施(橋小学校:130名、南原小学校:44名)。また、雨水利用促進のため、久末小学校に雨水タンクを設置。 ・区役所庁舎の「エコシティホール化」の推進のため、緑のカーテン及び庁舎電灯のLED照明への更新を実施。						
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標		H27年度	H28年度	H29年度	単位
	1	活動指標	講習会開催回数	目標	2	2	回
				実績	-	2	
	2	活動指標	緑のカーテンの実施	目標	1	1	回
				実績	1	1	
	3			目標			
実績							
4			目標				
			実績				

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	国及び本市において、地球温暖化適応策に関する計画・方針が策定されるなど、環境に関する関心や機運が高くなってきている。		
事業の見直し・改善内容	■ 実施 (直近) 平成 29 年度 □ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H29: 明治大学田中研究室と協働した取組「小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト」を実施		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	世界的な気候変動が進行し、異常気象や局地的豪雨などが区内でも発生しており、区民の環境に関する関心や機運が高くなってきていることから、今後も取組を継続して行う必要がある。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	流域に関する理解促進のため、明治大学田中研究室と協働で小学校2校を対象に出張授業を行うなど、新たな手法を用いて区民に分かりやすい内容・視点で理解を深めることができた。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	事業手法等の改善の余地はある。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	環境問題を身近な問題として捉えることができるよう、区民一人ひとりがそれぞれの立場でできる活動につなげる取組を行い、環境に関する区民の意識醸成を図っていく。

平成29年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	30	15	高津区民祭周辺環境対策事業費			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			671700		地域振興課		渡邊	64352	

事業の概要

事業の概要	20万人を動員する市内最大級のイベント「高津区民祭」において発生するごみを、単に廃棄物処理にとどまらず、地球環境問題を考え地域住民と連携した環境対策の機会とし、会場内に「ごみステーション」を設置し分別処理や普及啓発活動を通じて環境意識の醸成を図る。「ごみステーション」周辺の交通整理員を配置し、区民祭パレードの進行と連携した安全確保を行う。							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	環境まちづくり事業費				
	平成23年度	—						
地域の課題と現状	「川崎市一般廃棄物処理基本計画の行動計画」、「プラスチック製容器包装の分別収集拡大」等、3R行動の周知は日常様々な場面で行われているが、今後も普及啓発を続けていく必要がある。また、高津区が推進する「エコシティかつ」の理念の浸透を図り、適応策・緩和策を提示し、地域における環境意識の高揚を促す必要がある。							
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	1,920	1,920	1,920	1,920	1,920	1,920	
	財源内訳	国庫支出金						
		市債						
その他特財								
一般財源	1,920	1,920	1,920	1,920	1,920	1,920		

計画 (Plan)

事業の目的	3R行動や、「エコシティかつ」推進方針が地域に浸透し、具体的な環境行動が自発的に行われる環境をつくる。
今年度の事業の取組内容	区民祭会場内に設置した「ごみステーション」における分別回収の呼びかけ・ごみの減量やその他環境行動の普及啓発・周辺の安全確保

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			
取組内容の実績等	高津区民祭実行委員会を受託者とし、大山街道を会場とする区民祭のほぼ中央にメイン拠点としてごみステーションを設置。展示による啓発を行うとともに、沿道警備・交通整理及びスタッフ・参加者の水分補給所として提供した。					
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標	H27年度	H28年度	H29年度	単位
	1	目標				
		実績				
	2	目標				
		実績				
3	目標					
	実績					
4	目標					
	実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化	日々発生するごみをめぐり、その処分は大きな課題になっている。単に廃棄物として処理するにとどまらず、地球環境をふまえてその減量化、再利用が強く求められている。		
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) 平成 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	ごみを「廃棄するもの」から、「資源になりうるもの」としての意識啓発は今後も継続することを要し、大量動員イベントでの取組により、市場経済のミニマム版における循環型処理システムを実現する意義は大きい。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	地域住民の代表である区民祭実行委員会を受託者とし、対等な関係において具体的な取組内容に関する意見交換を行い実施した結果、ごみの分別回収・減量やその他環境行動の普及啓発・周辺の安全確保に大きな効果があった。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	委託団体等と協議を行い、実施方法等の改善を進める余地がある。	

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	平成30年度も高津区民祭の開催準備が進められており、市民の環境意識の向上にあわせて開催内容の検討を行い、事業継続する。

平成29年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小	「エコシティかつ」推進事業費			
11	01	05	26	30	20				
担当		所属コード		所属名		担当者		連絡先	
		671650		企画課		熊島		64122	

事業の概要							
「エコシティかつ」推進方針に基づき、各プロジェクトについて、関係局や関係団体と連携して取り組みを推進し、区民の環境意識の醸成を図りつつ、持続可能な循環型都市「エコシティかつ」の実現を目指す。 【各プロジェクト】 (1)「エコシティかつ」推進会議及び「エコシティかつ」推進フォーラム (2)たかつの自然の賑わいづくり事業 (3)学校流域プロジェクト (4)たかつエコシティツアー							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	環境まちづくり事業費		
		平成20年度	—				
地域の課題と現状		高津区でも顕在化しつつある自然環境、社会環境、生活環境に関する諸課題に対して、地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に取り組む必要がある。特に、世界的な気候変動(地球温暖化)が進行し、異常気象や局地的豪雨などが区内でも発生し始めており、従来の地球温暖化緩和策に加えて、流域思考に基づく地球温暖化適応策と生物多様性保全の視点から取り組みを進める必要がある。					
予決算 (単位:千円)		年度	H27年度		H28年度		H29年度
			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額
		事業費	5,000	4,980	4,565	4,538	4,442
財源内訳		国庫支出金					
		市債					
		その他特財	154	244	142	169	142
		一般財源	4,846	4,736	4,423	4,369	4,300
							4,265

計画 (Plan)	
事業の目的	(1)環境を大切にすることを育み、生活様式の変革を促すことで、「生活の質」を向上させ、豊かな市民生活の実現、新たな文化・価値創造を目指す。 (2)水系や流域、丘陵、崖線、谷戸などのランドスケープを重視し、生命の賑わい豊かな自然共生型の都市再生を、地域から推進する。 (3)局地的豪雨や台風の巨大化等による洪水など、気候変動によって増大すると予想される災害に適応するため、流域思考に基づき地形や水循環の特性に即した「水災害適応型都市」づくりを推進する。
今年度の事業の取組内容	(1)「エコシティかつ」推進会議を年3回、「エコシティかつ」推進フォーラムを年1回開催するとともに、会議・フォーラムを通じて、次年度以降の取り組みの方向性について検討・策定する。 (2)たかつの自然の賑わいづくり事業は、昨年度に引き続き緑ヶ丘公園内のモデル地区において実践的な取り組みを展開するとともに、児童向けのイベントを実施する。 (3)学校流域プロジェクトは、ピオトープ整備校に対して環境学習支援を継続実施する。また、教職員向けの研修会を実施する。 (4)「エコシティツアー」を開催し、区内にある身近な「適応策」と「生物多様性保全」の取り組みを紹介する。

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成	4. 目標を下回った				
			2. 目標を上回って達成	5. 目標を大きく下回った				
			3. ほぼ目標どおり					
取組内容の実績等	(1)「エコシティかつ」推進会議を3回開催し、平成30年度の取り組みの方向性について検討・策定した。また、「エコシティかつ」推進フォーラムを開催した(平成29年12月3日)。 (2)たかつの自然の賑わいづくり事業は、市立緑ヶ丘公園において、適応策・生物多様性保全のための実践的な取り組みを2つ実施した。①児童向けイベント「たかつ生きもの探検隊」(平成29年9月18日)、②市民向けイベント「たかつ水と緑の探検隊」(平成30年2月17日)。 (3)学校流域プロジェクトは、区内のピオトープ整備校に学習支援を実施するとともに、校舎増築に伴い、ピオトープを作り直した末長小において、ピオトープ開きを実施した。また、教職員向け研修会を実施した。 (4)「たかつエコシティツアー」を開催し、区内にある身近な「適応策」と「生物多様性保全」の取り組みを紹介した(平成29年8月20日)。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H27年度	H28年度	H29年度	単位
	1 活動指標	エコシティかつ推進会議の開催	目標	3	3	3	回	
			実績	3	3	3		
	2 活動指標	エコシティかつ推進フォーラムの開催	目標	1	1	1	回	
			実績	1	1	1		
3 活動指標	たかつの自然の賑わいづくり事業の開催	目標	2	2	2	回		
		実績	2	2	2			
4 活動指標	たかつエコシティツアーの開催	目標	1	1	1	回		
		実績	—	1	1			

評価 (Check)							
事業を取り巻く社会環境の変化		国及び市でも適応策に関する計画・方針が策定されてきており(国:気候変動の影響への適応計画(H27)、市:川崎市気候変動適応策基本方針(H28))、適応策に関する関心・機運が高くなってきている。					
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 29 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)					
具体的な見直し・改善内容※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		昨年度、児童向けイベント「たかつ生きもの探検隊」は、申し込み開始日の午前中に定員を超える申し込みがあったため、午前・午後の1日2回実施にして定員を増やし、申し込み方法も先着から抽選に見直した。					
評価項目				評価			
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか			a. 薄れていない	a		
	評価の理由	世界的な気候変動が進行し、異常気象や局地的豪雨などが区内でも発生し始めており、従来の地球温暖化緩和策に加えて、流域思考に基づく地球温暖化適応策と生物多様性保全の視点から取り組みを進める必要がある。					
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか			a. 上がっている	a		
	評価の理由	継続してイベント等を開催することで区民に環境意識の醸成を図ることができ、アンケートの結果からも一定の成果があったと考えられる。					
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか			a. 可能性はない	b		
	評価の理由	学校流域プロジェクトにおいて、職員の負担が大きいため、最初の数クラスのみ対応するなど、改善の可能性はある。					

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	引き続き、「エコシティかつ」推進会議や各種イベントを通じて、環境問題を身近に、かつ効果的に感じてもらい、区民の環境意識の醸成を図る。また、平成30年度に「エコシティかつ」推進方針を見直し、今後の事業展開について検討を行う。

平成29年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	30	25	水と緑のネットワークづくり推進事業費			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			671650		企画課		高橋	64123	

事業の概要								
事業の概要		市議会への請願を含む地域住民からの要望も踏まえ、二ヶ領用水久地円筒分水からかすみ堤、多摩川へとつながる「水と緑のネットワーク」の実現、多摩川河川敷広域避難所へのルート確保等についての調査及び検討を行う。						
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	環境まちづくり事業費			
		平成20年度	—					
地域の課題と現状		溝口駅周辺地区は多摩川崖線から多摩川にかけて久地緑地を中心に豊かな緑が広がり、かすみ堤、久地円筒分水から二ヶ領用水などの歴史的資源、多摩川にそそぐ平瀬川支流など豊かな水と緑が残る地域である。これらのネットワークを構築することにより、生態系(生体)ネットワークの形成、観光ルートの形成、多摩川河川敷広域広場に至る避難経路としての活用等に配慮した、地域の魅力向上(自然共生型都市再生)に向けた取り組みの検討を行う。						
予決算 (単位:千円)		年度	H27年度		H28年度		H29年度	
			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
事業費			500	0	500	0	297	0
財源内訳		国庫支出金						
		市債						
		その他特財						
		一般財源	500	0	500	0	297	0

計画 (Plan)	
事業の目的	地元及び市議会の意向を踏まえ、国との協議を進めて国有地であるかすみ堤を保全・活用する。
今年度の事業の取組内容	庁内関係部局と連携しながら、かすみ堤の保全・活用に向けて国土交通省京浜河川事務所や地元町内会・保存会との調整や検討を行う。

実施結果 (Do)							
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	河川区域に再編入されたかすみ堤について、市が国から河川占用した上で地元町内会・保存会と協働して維持管理及び活用していく方向性について、京浜河川事務所及び地元保存会等と確認できた。						
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標		H27年度	H28年度	H29年度	単位
	1		目標				
			実績				
	2		目標				
			実績				
	3		目標				
			実績				
	4		目標				
		実績					

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	国がかすみ堤を河川区域に再編入したことにより「かすみ堤」が保全され、「水と緑のネットワーク」は概ね確保されることになった。		
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施(平成30年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	これまでの経緯も踏まえ、保全されたかすみ堤を市が河川占用した上で、地元保存会等との協働により維持管理及び活用を行うことで、地域コミュニティの活性化を図ることを目指す。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地元及び市議会の意向は保全・活用であることから、事業に対するニーズは引き続き高いものと考えられる。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	市が河川占用した上で地元保存会等と協働して維持管理及び活用していく方向性について、京浜河川事務所及び地元保存会等と確認できたことは、一定の成果があったものと考えられる。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	京浜河川事務所や地元保存会等、庁内関係部局と協議を行いながら、効率的な事業推進手法を検討していく。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	京浜河川事務所や地元保存会等と確認した方向性を踏まえ、庁内関係部局とも協議を行いながら、事業推進手法を見直し・改善のうえ継続することが適切であると考えられる。